



11月号

令和2年10月31日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

本との出会い

副校長 阿久井 勲

10月12日(月)に、後期がスタートしました。子ども達は、気持ちも新たに自分の目当てに向かって取り組んでいこうとしています。前期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校での過ごし方、学習の行い方など様々なことが以前と違いましたが、子どもたちは、コロナ禍での過ごし方にも慣れてきて、マスクをつけて大きな声を出さないなど、自分たちでも声を掛け合っています。

さて、夏の暑さが過ぎ去り、とても過ごしやすい季節になりました。「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」と何をするにもよい季節になりました。休み時間に校庭で遊ぶ子ども達は、とても気持ちよさそうで生き生きとしています。

私は、小学生の頃、休み時間になると校庭に出て遊ぶのを楽しみにしていて、休み時間ぎりぎりまで遊んでいました。低学年の頃は、ドッジボールを毎日のようにやっていた。高学年になると、カラーのゴムボールを使ってハンドベースボールを夢中になってやっていた。外で遊ぶのが大好きな子どもでしたが、3年生の頃から本を読むことも好きになりました。国語の時間に学習した椋鳩十さんの「月の輪ぐま」や大石真さんの「青いシグナル」が印象に残っています。「月の輪ぐま」では、赤石山脈の大自然のすがすがしい情景や母ぐまが子ぐまを助けるために滝つぼにとびこむ場面に感動しました。「青いシグナル」では、定年間近の駅長さんが夏の臨時にできた駅で最後の電車を見送る場面が印象に残っています。

私が通っていた小学校の図書室は、木造の教室でとても落ち着いた雰囲気の良い教室でした。本の題名に誘われてSF小説を読み始め、本の世界に引き込まれて本を読むことが楽しくなっていたのを覚えています。東中田小学校には、低学年図書室と高学年図書室の二つの図書室があり、とても恵まれていると思います。低学年図書室は、絵本や童話が充実していて、読みやすい本がそろっています。「かいけつゾロリ」などは、本の状態からたくさん読まれてきたことがわかります。高学年図書室には、物語、歴史、地理など様々なジャンルの本がそろっています。人気があるのは、表紙が漫画で描かれていて読みやすい本や学校の怪談のような怖そうな本です。

秋は、気温が下がって快適になり、集中しやすい季節なので、ゆっくり読書をして過ごすのにはとても適しています。人間の集中は、気温や湿度が関係していて、様々な研究によると22度前後の気温が集中するには、とてもよいようです。本はあまり読まないという人や苦手だなと思っている人も快適な環境の中で、ぜひ本を手にとって読んでほしいと思います。野球やサッカーなど運動が好きな人は、スポーツの本を読んでみてはどうでしょうか。表紙が楽しそうだからとか、読みやすいからということで読むのもよいと思います。



10月28日(水)から東中田読書月間がスタートしました。

この機会に本を読む楽しさにふれてほしいと思います。